

# NPP

NAKAMURA PAPER PACKAGE

今回の特集  
阿島傘



## COVER'S TOPIC

### ステンドグラス 伊藤かれんさん

伊藤かれんさんは、東京でご活躍をされていますが地元飯田に戻り、ご自身のステンドグラス製作の傍ら、ステンドグラス教室を開催し、生徒さんの製作の指導をされています。

ステンドグラス製作に至った経緯を聞いてみました。きっかけは元々料理が得意で薬膳料理等をされていますが、イタリア料理を学ぼうと修行の為に本場イタリアへ。訪れたヴェネチアの町並み、教会や大聖堂のステンドグラスに魅了されてムラーノ島(ステンドグラス職人の島)のスクールの門を叩きました。そこで見て体験したガラスとオブジェの鮮やかさに驚きと感動を覚えました。その時の経験が今でも自分流のステンドグラス製作の原点となっています。

工程は先ず作りたい物を紙に描き色を入れます。完成品を置く場所も決めておきましょう。色ガラスをカット、半田付けで形を組み合わせて完成。生徒さんには『私なら必ずできる!』と信じてミスを恐れず製作して欲しいと話されています。

また、サンドブラストといったガラスへの彫刻も手掛けます。表面に細かい砂等の研磨剤を吹き付け、文字や模様に沿って深さを変えて彫刻をします。

教室に何うとベテランさんから始めたばかりの生徒さんもらっしやいます。先生のアドバイスを受けて集中し作業するなかでも、お互いの作品を見ながら和気あいあいとした雰囲気の中で作品製作に打ち込まれています。

かれんさんは製作の面白さに関して、ステンドグラスは作った人其々のオリジナル作品。インテリアとして、ペンダントトップ、プレゼントなどの全てが世界に1つだけの作品。多くの人に見て体験して頂き、ステンドガラスを持つ「光と色の魔術」を知ってもらいたいとおっしゃっていました。

かれんさんの作品や体験教室にご興味のある方は「アトリエかれんのホームページ」を検索下さい。

祝辞便り

南信州菓子工房株式会社様

平成24年に工場を阿智村へ建設され、平成29年3月隣へほぼ同じ規模の工場を増設され4月より稼働し始めました。国産、信州産、南信州産など地域に拘り原料を吟味して商品づくりをされているからこそ、お客様から信用され愛されるドライフルーツが作られているのだと思えます。ドライフルーツはミネラルや食物繊維などの栄養成分が凝縮され、少ない量でたくさん栄養を取ることができ、一年中いつでも食べる事ができます。ナチュラルでヘルシーな食材としていろいろな味を楽しむことができるドライフルーツ。

現在、市田柿、キウイ、りんご、洋なし、いちご、レモン、イチジク、トマト、南高梅、清見オレンジ、温州みかんなど製品化され大手コンビニ、大手スーパーなどで販売されています。

これからも 安全・安心で美味しいドライフルーツの専門メーカーを目指されている南信州菓子工房様のますますのご繁栄を御期待申し上げます。



〒395-10301  
長野県下伊那郡阿智村春日3291-1  
TEL 0265-14315211

雑学講座

「山」と「岳」「嶽」の違いの？

信州には日本百名山のほぼ三分の一が集中しています。その山の名前にもちゃんとしたルールがあるのです。

たとえば「山」(やまさんざか)は、これらは通常、独立峰につける名前です。「浅間山」「黒姫山」「蓼科山」などが代表ですね。そういえば「富士山」も、それに対して「岳」とつくのは連峰のひとつの峰です。「乗鞍岳」「穂高岳」「駒ヶ岳」「白馬岳」。やはり険しいイメージがきますね。

さらに「嶽」がつく山は信仰対象です。ですから木曾の「御嶽」は岳ではなく嶽です。また独立峰で、読みが「○○山」「○○さん」と読むケースも信仰の山だと言われています。

小顔にみえマスク

今売られています



マスクと言っても、今や使い捨てはもちろん、色・柄物や自分に合わせてオーダーメイドできる物も発売されています。いろいろある中で女性向けに発売されたのが「小顔にみえマスク」です。一見普通の使い捨てのマスクと変わりませんが、あごのから耳にかけてのラウンドフォルムが顔にぴったりフィットしてすっきり小顔に見えるように設計されています。さりげないかわいらしさを演出するには効果的かもしれませんね。

おじやまします

社会福祉法人たんぼ福祉会 くりくりの里中津川様

岐阜県中津川市苗木地区にあります「くりくりの里中津川」は、恵那市の社会福祉法人たんぼ福祉会様が障害を持つ方の働く場として中津川市苗木地区に整備され、農産物販売所・椎茸パックセンターを運営されています。

店舗では地元の農家さんの野菜や、恵那たんぼぼ作業所様で作られている椎茸、味噌、豆腐、パン、野菜、お弁当、大福などを販売されています。その他にも、全国から集めた授産製品なども販売されています。椎茸パックセンターでは障害を持つ方たちが栽培から収穫、加工、パッケージまで携わっており、今まで手作業だったパック詰めを、一部ピロー包装にして自動化も図っています。

平成28年7月には同敷地内に「和食処なかつ川」もオープンされ、平成29年4月には館内で作られたお菓子や漬物、地元の和菓子やお土産などを販売する「手作り館 夢工房」もオープンされます。

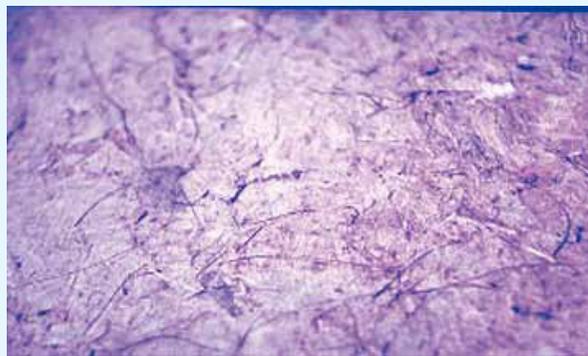
障害を持つ方の自立を目指す働く場所とともに地域の活性化の拠点にもなっています。「くりくりの里中津川」には是非お立ち寄りください。

住所 岐阜県中津川市苗木481522  
TEL 057316718343  
営業時間 9時～16時



vol.46 江戸時代の紙再生法

はたらく紙



江戸時代になると多くの再生紙が作られ、中でも江戸の浅草紙、京都の西洞院紙が有名です。古紙回収も商売として成り立つようになりました。

天明四年(一七八四年)に肥前唐津(佐賀県 藩士木崎盛標が、製紙法を解説した絵図入り「紙漉大概」を著しました。その最後に古紙の漉き返し法が書かれています。この書は製紙

法を記述した日本最初の書(稿本)ですが、再生紙についても最初のものです。

漉き返しの方法は、古紙を引き裂き、木杯や貝殻を焼いて作った灰汁(弱いアルカリ性溶液)で煮た後、洗ってはたたくを繰り返してパルプにします。現在の古紙パルプ製造法と原理的に同じです。ただし墨を取り除くよい方法がなかったので、再生紙は薄墨色をしていました。

江戸時代の脱墨法としては、豊後(大分県)生まれの農学者・大蔵永常が天保七(一八三六)年に書いた「紙漉必要」(原稿)が残っています。これは反故紙に煮た後、容器に入れて筵(むしろ)をかけ、ふた晚ほど放置して脱墨するという発酵を利用した技術です。ただし、この脱墨法は実用化されていません。



この封筒を使うだけで

- ・1枚で往復可能。省資源に！
- ・手間なし！経費節減（封筒+印刷代+封入の手間）
- ・企業のイメージアップ！
- ・返信率の向上！

詳しくは弊社営業担当までお問い合わせお願い致します。

- 送り主**
- ① 返信用の宛名を記入
  - ② フラップを閉じる
  - ③ 往信用の宛名を記入
- 受取人**
- ① 開封すると...
  - ② 返信用の宛名と封かん用フラップが現れる
  - ③ 宛先フラップをミシン目より切り離し、封かんフラップを折り返し閉じる

**シンプル**な発送で、1枚の封筒が往復利用できるエコな封筒をご紹介します。この往復封筒は、双葉印刷(株)より販売されており、特許も取得されている商品です。

**使い方**

### ダブルフラップ式 往復封筒 3

Round-trip envelope

desk paper cutter

### 卓上断裁機 (小型電動断裁機) 4

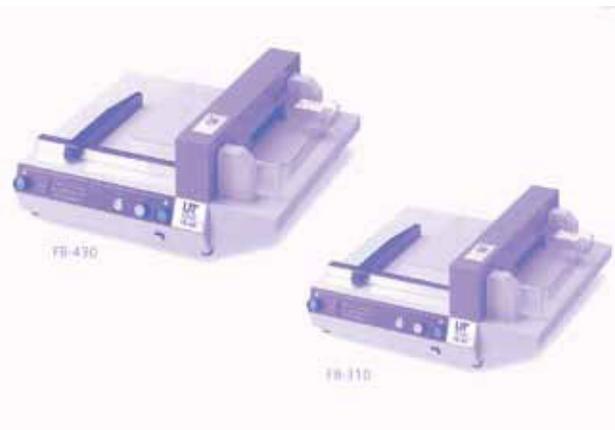
**紙**を切るための断裁機はオフィスや学校、官庁などでよく使われています。断裁機を使用した皆さんであれば多少なりとも怖い思いをされたことがあるでしょう。

平成23年7月に改定の労働安全衛生法において危険防止の基準が改定されました。断裁機器による労働災害は依然として高い水準で発生しており、その多くが後遺障害を伴うものです。主な改定箇所は新たな安全装置の追加を義務付けたものです。

今回紹介する卓上断裁機は利用者の安全を追求した商品です。写真の2機種はどちらも新・型式検定に合格した商品です。難しかった断裁の位置合わせはカッティングライトが表示されるので従来に比べ簡単になりました。コピー用紙程度の厚みであれば250枚位は一回で断裁が可能です。

FB1430はA3サイズ、FB1310はA4サイズ対応機種でどちらも100V対応。A3サイズ対応機種でも65cm角程度の大きさで場所も取らずコンパクト設計となっています。利用される皆さんの安全性と使い易を兼ね揃えた断裁機です。

詳しくは弊社営業担当までお問い合わせお願い致します。



こちらの商品の詳細につきましては、弊社の営業担当までお願い致します。

様々な種類がございます。「むすばない、ふるしき」の「おつつみ」は人を結ぶコミュニケーションということで、お土産を包むために店名を印刷したい、展示会で自社ロゴなどを印刷して配布したいなどのオリジナルで作成したいというご要望にも対応できます。

### 1 風呂敷「おつつみ」

Wrapping cloth

## 当社取扱いのおすすめ商品

### 2 紙製保冷袋



**今**ご紹介致します、紙製保冷袋は通常の紙袋に「保冷効果」をプラスした紙袋です。内面のアルミフィルムと袋の密封により、袋内部の温度上昇を抑え(要保冷材併用)、冷蔵商品の持ち帰りにご使用頂けます。

手提袋、角底袋、平袋がラインナップされており、用途に応じて形状をお選びいただけます。既製品は「手提袋 タックホルダータイプ (260×160×295H)」、「手提袋 切込みハンドルタイプ (280×140×340H)」、「角底袋 大 (220×120×295H)」、「角底袋 小 (130×85×240H)」、「平袋 大 (260×335)」、「平袋 小 (215×285)」の6種類をラインナップ。既製品であれば小ロットで対応できます。また、別注品(別注サイズ、別注印刷)も可能で、今お使いの紙袋のイメージをそのまま保冷袋にすることができます。

詳しくは弊社営業担当までお願い致します。

Cooler Paper



## 傘づくりの工程

「骨の数だけ工程がある」とされる阿島傘。和傘づくりには多くの工程があるため、かつては気候に合わせて作業をしていました。晴れた日は傘を干したり、畑に出たり、雨の日には家で骨を作ったり。天気の良い日には田園のあぜ道いっぱいに傘が干され、それはそれは気持ちのよい光景だったそうです。

完成までには1ヶ月ほどかかるようです。かつては分業で行われていた傘づくりですが、現在ではほとんどの工程をひとりで行うことが求められています。

【傘づくりの工程(番傘・抜粋)】



### 間割り けんわり → 大割り おおばり → 天井割り てんじょうばり → 白仕範 けんわり → 油引き あぶらひき

傘の骨を等間隔に配分する。この作業が最終の仕上がりの美しさに影響する。	傘の形に切った和紙を、何枚かに分けて親骨に張る。	傘の中心部分に幾重にも和紙を重ねて張る。最も技術を要する作業。	糊が乾いた傘に閉じる時の折り目を付け、形を整える。	天候の良い日に、和紙に油をひいて干す。油は荏油、亜麻仁油、桐油などを配合。
-------------------------------------	--------------------------	---------------------------------	---------------------------	---------------------------------------

## 阿島傘のいま

雨具として生活必需品だった阿島傘は、時代とともにその需要も変わりました。最盛期には年間30万本生産していた阿島傘ですが、月日は流れ洋傘の普及とともに和傘は衰退し、現在では阿島の菅沼商店さんが年間100本程を生産するのみとなりました。また、材料が地域内で揃ったことから盛んになった傘づくりでしたが、骨屋・ろくろ屋等の職人がいなくなり、現在は竹の骨組みを岐阜から仕入れ、傘作りを続けています。

地区の皆さんで組織する「阿島傘の会」では、江戸時代から続くこの伝統工芸を传承しようと、地元小学校での傘づくり体験を通して保存・传承活動を行うとともに、鑑賞用として人気の「蛇の目傘」の製作にも新しく取り組んでいます。また、村役場には置き傘として備えられており、現役の「番傘」としても活躍しています。

阿島傘の伝統を絶やすまいとする思いが、現代にもこうして阿島傘を残してくれているのだと思います。伝統を守り継いで来た職人の思いや、歴史に触れることで、改めて阿島傘の魅力を再発見できました。これからも阿島傘が後世に受け継がれていくことを願っています。

2月26日土曜日 社内研修として、喬木村「阿島傘伝承館」にて阿島傘保存会の皆様から、阿島傘づくりの歴史や製作の工程についてお話を聞かせていただきました！



## 喬木村の伝統工芸 阿島傘

喬木村歌にも歌われる喬木村の伝統工芸 阿島傘。最盛期には100件以上の傘屋さんがあり、傘の村として喬木村を活気づけました。職人の手作業で丁寧に作られた美しい姿「バリバリ」と傘を開く音 雨音がはねる音 油のにおい 手に馴染む竹の持ち手 阿島傘には五感で風情を感じられる魅力があります。



## 旅人が伝えてくれた 恩返し傘

阿島に陣屋を構えていた知久氏は知行三千石の旗本で、慶長6年(1601年)以来江戸幕府の命で浪合の関所(現在の下伊那郡阿智村)を守っていました。うらかな春の日、この関所を通りかかった一人の旅人が腹痛で苦しんでいるのを、関所守が番屋に泊め懇ろに介抱しました。快癒した旅人は御礼に傘作りを伝授してくれました。

和傘には骨になる竹(マダケ)と雨よけの和紙はもちろんのこと、骨をつなぐろくろ(ジシャ・ミネバリ・ヤシャブシなどの広葉樹)、のりとなるわらび粉、油、柿渋など、様々な材料が必要となります。知久の殿様は、領内に傘作りに必要なこれらの材料が揃っており和傘づくりに適していると考え、この地域の地場産業として広められました。

その結果、阿島傘は当地の一大産業となり、最盛期には100軒以上の傘屋さん阿島の地に軒を連ねました。



## ISOレポート



弊社では2002年3月にISO 9001(2000年度版)の認証を取得し15年ほど活動を継続しています。

この度、2015年度版への移行に伴い、2月14日に認証審査を受け3月12日に認証を頂きました。当社ではお客様に満足していただける商品の販売を心掛けて日々仕事をしております。期の始めに品質目標を立て、各部署で目標値を設定して活動をしています。ですが、まだまだ至らない点が多々あるかと思えます。是非何かご意見がございましたらご遠慮なくご報いただければ幸いです。これからもよろしくお願い申し上げます。

## エコアクション21レポート②



エコアクション活動の中で最も重要な活動として、毎年取り組んでいます。

- ①『PLAN』エネルギー使用量・ゴミ排出量等を把握し、環境負荷の削減目標を立てる。
- ②『DO』①で立てた目標達成のための取り組みを実施する。
- ③『CHECK』②で行った取り組みの結果をまとめて評価をする。
- ④『ACTION』③の評価を次の改善につなげる、①の目標の改善をする。
- ⑤『環境レポート』①～④までの取り組みを1年毎に環境レポートにまとめる。

これらPDCAサイクルを繰り返すことで、環境への取り組みを継続的に改善しています。

## NEW STAFF

## 我が社のフレッシュマン!



昨年8月に入社しました。佐々木玲子と申します。年齢的にも転職には不安もありましたが、職場の皆さまには温かく迎えて頂き嬉しく思っています。慣れない事も多いですが会社に貢献出来るように努力してまいりますので、ご指導の程よろしくお願い致します。

## 今回本誌で使用の紙

雷鳥スーパーアートMN

4/6 110kg

中越ハルプ工業株式会社製

クールな青味が特徴の最高級タルアート紙です。

光沢を抑えた白紙面と宝石のように輝く印刷面とのコントラストが高級感を際立たせます。

環境に配慮したFSC森林認証製品も有ります。高級感の有るカタログ等に是非使用してみてください。

紙提供 中越ハルプ工業(株)

## MATERIAL

## EDITING POSTSCRIPT

今回の特集は阿島傘です。弊社は明治39年、阿島傘、久堅和紙の産地問屋として創業いたしました。我々に関わりの深い阿島傘は現在ほとんど製造、流通されていません。いま日本の伝統工芸品が見直されている中、この技術を継承していくことの出来るよう弊社も何かできないか、お役に立てないか模索していきたいと思えます。

## 編集後記



〒395-0154  
長野県飯田市下殿岡454-10  
TEL.0265-28-1234 (株)中村  
E-mail info@kknakamura.net